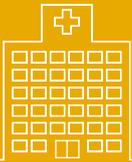


八鹿病院 ニュース



2013年

10月号

地域に暮らす人々と共に
心あたかな医療をすすめたい

ひとりでも多くの
救える命を救いたい。



● yoka hospital 「医療」

災害派遣医療チーム **DMAT**

- 現場レポート！「薬剤科」
- 被曝しない内臓脂肪測定装置「デュアルスキャン」
- トピックス

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、
医の倫理を基本に、質の高い医療
と優れたサービスをもって、住民
の健康を守り、地域の発展に尽く
します。



当院は敷地内全面禁煙です
ご協力宜しくお願い致します



yoka hospital「医療」

災害派遣医療チーム DMAT ディーマツト

広域医療搬送訓練で
病院支援を行う
当院のDMAT

Disaster Medical Assistance Team

DMATとは

DMAT（ディーマツト）とは「災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）」の略称です。大地震や航空機・列車事故といった災害が起こったときに、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームのことをいいます。1チームは5名程度で、医師、看護師、業務調整員で構成されます。

DMATは災害発生時に、現場で医療を行うだけでなく被災者の生命を守るためにさまざまな支援を行います。災害時に、患者さんが多数運ばれる被災地の病院機能を維持、拡充するために、病院の指揮下に入り医療を支援する「病院支援」、また、首都直下型、東海・東南海・南海地震など想定される大地震で多数の重症患者が発生した場合、平時の救急医療レベル

を維持するため被災地の外に搬送する「広域医療搬送」など、機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療的支援を行います。

当院のDMAT

平成25年6月に医師1名、看護師2名、業務調整員2名の5名がDMAT研修を修了し、以前、研修を修了していた医師1名と併せて計6名の隊員にてDMAT1チームが誕生しました。これと同時に、兵庫県より兵庫DMAT指定病院として指定されました。当院のDMATが整備されたことで、兵庫県内全ての災害拠点病院（※）にDMATが整備されたこととなります。

（※）災害拠点病院

大規模災害の発生時における多数の傷病者等の受け入れ拠点施設を担うとともに、他の救助・救護機関や地域の病院と連携して広域的な医療支援活動を行う施設のことです。当院は、平成8年に兵庫県より指定されています。

DMA Tの主な機能

本部活動：災害時に、管内等に参集したDMA Tに対する指揮、関係機関との調整等を行う組織の一員として活動します。

広域医療搬送：被災地域で対応困難な重症患者を緊急の治療のため、被災地域外に搬送します。

病院支援：被災地域内の病院に対する医療の支援を行います。多くの傷病者が来院している病院からの情報発信、当該病院でのトリアージや診療の支援、広域医療搬送のためのトリアージ等を行います。

域内搬送：災害現場から被災地域内の医療機関への搬送、被災地域内の医療機関から近隣地域への搬送、被災地域内の医療機関からSCU（広域搬送拠点臨時医療施設）への搬送及び被災地域外のSCUから医療機関への搬送を行います。

現場活動：災害現場にてトリアージ、緊急治療等を含む医療活動を行います。

2013年8月31日

広域医療搬送訓練に参加しました

南海トラフの巨大地震により、愛知県・三重県・和歌山県を被災県と想定して、広域医療搬送等を行う訓練でした。県営名古屋空港へ参集し、DMA T病院支援指揮所となった名古屋第二赤十字病院へ移動。その後、指示により名古屋市立大学病院にて病院支援を行いました。



参集拠点となった県営名古屋空港



病院支援に携わったDMA Tとして名古屋市立大学病院での訓練反省会に参加させていただきました。



DMA T病院支援指揮所へ移動前の打合せを行う。

災害時の現場活動は、院内での医療に比べて大変危険な環境です。災害現場活動用の服装・医療機器を整備し、研修及び訓練等に努め、より安全な活動ができるよう心がけます。



薬剤科

調剤業務はもとより医薬品のリスクマネジャーとしてリスク回避にも努め、チーム医療の一員として業務を行っています。

患者さんに安心・安全で最適な医療（薬物療法）を提供します

2005年、院外処方箋を全面発行するようにになり、病院の薬剤師は外来の患者さんと顔を合わせる機会がめっきり減りました。「病院の薬剤師はどこで何をしているの?」と思われる方もおられるのではないのでしょうか。

当院の薬剤師は現在、病棟

に設置されたサテライト薬局に常駐し、薬の調剤・調製業務と服薬指導、薬が安全・適切に使用するための薬剤管理など、主に入院患者さんを対象とした業務を行っています。退院後には、在宅での薬の管理ができるよう訪問薬剤管理指導も行っています。また、病棟におい

て投与されている薬の量が適量か、効果や副作用がないかをチェックし、患者さんの元へ直接出向いて状態を確認するなど、今までの枠にとられない活動にも取り組んでいます。これは医師や看護師などの業務軽減にもなり、結果的に患者さんに最適な医療を提供すること

へもつながっています。今後も、薬の適正使用の推進と薬物治療における安全性確保を目的に、薬の専門家として積極的に患者さんに関わっていきたいと考えています。



処方箋をもとに適正に調剤 調剤業務

処方箋の内容について処方量・飲み合わせ・飲み方などのチェックを行い、患者さんお一人おひとりに適正な形で調剤します。



効果の強い注射薬など責任をもって調製 無菌調製業務

薬を混合する際に、無菌的に調製する必要があるもの、安全性に関して特に専門的知識が必要な抗がん剤など、効果の強い注射薬も患者さんに安全に使用できるよう責任を持って調製しています。



中心静脈栄養（TPN輸液）



抗がん剤

正しいお薬の飲み方をアドバイス 外来服薬指導

インスリン注射の使い方、検査薬や吸入薬など外来患者さんがお薬を正しく使えるように、使い方・注意点などをお伝えします。



病棟に薬剤師が常駐する 病棟サテライト薬局

各病棟に設置した薬局を拠点に、入院患者さんの処方された薬の調製や管理などを行います。薬剤師が直接関わることで、看護師等他の医療スタッフへ薬の適正使用の情報を提供し、薬による医療事故を防止する役割も担っています。



看護師と共同で注射薬の調製を行います。



薬を患者さんごとに分けられたカートにセットします。



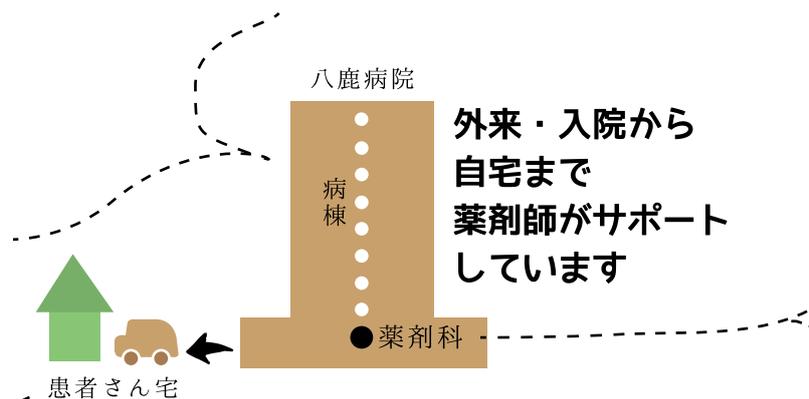
問題を未然に防ぐために患者さんの状況を把握し薬物療法の情報を集め管理します。



医師や各医療スタッフと密に連携し、患者さんの最適な治療法や方針を検討しています。



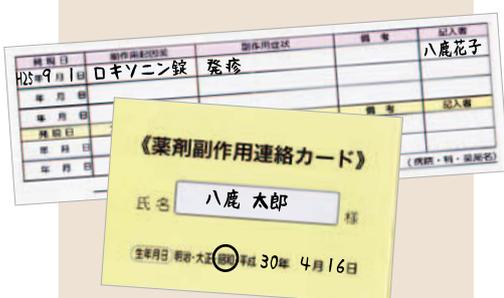
入院前の服薬歴や副作用などの調査、入院後に使用する薬の説明から使用後の効果や副作用の確認など、薬剤師が直接患者さんのもとで行います。



外来・入院から
自宅まで
薬剤師がサポート
しています

副作用からあなたを守る 薬剤副作用連絡カード

当院で副作用を確認し必要な患者さんに発行しています。



このカードを渡されたら？

健康保険証と一緒に携帯していたら、他の医療機関を受診する際には必ず医師・看護師等へ提示するようにしてください。

適切な服薬のため訪問する 訪問薬剤管理指導

患者さん宅に薬剤師が訪れて飲みやすいよう薬のセットを行ったり、バイタルチェック（血圧・脈拍・体温・心音など）やお話しをうかがい薬の効果や副作用の初期症状の有無を確認するなど、在宅での適切な薬物治療を支援しています。

薬についてお困りの方 おられませんか？

薬の管理に困っている
薬の服用に不安を感じる
など

どんな些細なことでも
お気軽にご相談下さい。



専任の薬剤師がお薬カートやカレンダーへの薬セットで服薬を援助します。

放射線を使用しない内臓脂肪測定

「デュアルスキャン」導入しています

簡単に内臓脂肪量を検査したい方へ。

内臓脂肪量を知るためには腹部のCT検査が標準的な検査でしたが、デュアルスキャンを導入することにより、被爆がなくなり、より気軽に検査が受けられるようになりました。

内臓脂肪の蓄積が命に関わる病気を招く

肥満には「内臓脂肪型肥満」と「皮下脂肪型肥満」があります。皮下脂肪型肥満とは、皮下組織の下に脂肪がたまるタイプの肥満です。それに対して、内臓脂肪型肥満とは、おなかの内臓の周りに脂肪がたまるタイプの肥満です。

肥満学会のガイドラインでは、BMIが25以上、内臓脂肪面積が100平方センチ以上あれば内臓脂肪型肥満と診断されます。実はこの内臓脂肪型肥満は、私たちの健康にとても悪影響を及ぼすことがわかっていきます。肥大化した

CT検査との比較 ▶

デュアルスキャンは、内臓脂肪量を測定するのでCTに比べ簡単に検査することが可能です。



※予約状況によっては後日検査になる場合もあります
 ※より詳しく検査されたい場合は内臓脂肪ミニドックコースをおすすめします。

【実施】火・金曜日（祝日を除く）

【受付時間】午後1時30分～4時

【料金】2,100円

お電話またはパンフレットの申込用紙を直接人間ドックに提出しお申し込みください。

<注意事項>

- ・ペースメーカーや除細動器埋め込みの方は検査できません。
- ・細く小柄な方は電極が装着できず、検査ができない場合があります。



<内臓脂肪測定のしくみ> 腹部全断面積から除脂肪面積と皮下脂肪面積を引き、内臓脂肪面積を算出します。



腹部全体の面積

腹部測定ユニットで腹部全体の面積を出します。

ひく



筋肉・臓器等の面積

手足の電極で脂肪以外（筋肉や臓器等）の面積を出します。

ひく



皮下脂肪の面積

腹部の電極で皮下脂肪面積を出します。

イコール



内臓脂肪の面積

全体の面積から、脂肪以外と皮下脂肪を引き、内臓脂肪面積を計算します。

内臓脂肪は、悪い働きをする悪玉ホルモンを盛んに分泌します。その結果、血圧・血糖値の上昇、脂質異常などが起こり、動脈硬化を進行させます。やがて、脳卒中や心筋梗塞といった命に関わる病気を招きやすくなり、いわゆるメタボリックシンドロームという状態となります。一方、皮下脂肪はあまり悪影響を及ぼさず、問題になりません。

自分の状態を知ることから始めてみよう

脂肪量を測ってみると、見た目がぼつちやりでも皮下脂肪型肥満で心配のない方や、痩せ型と見えて意外と内臓脂肪の多い方もあります。あなたはどちらのタイプにあてはまるでしょうか。

デュアルスキャンは放射線を使用しない簡単な検査ですので、お腹まわりが少しだけ気になる方や、ダイエット前後の比較など気軽に検査を受けていただけます。

自分の脂肪の状態を知り、その上で今後の生活習慣を見直すチャンスとして、ご利用ください。

実際にデュアルスキャンを受けてみました

検査を終えて…

検査もすぐに終わりましたし保健師さんにたくさんアドバイスいただけてよかったです。何より内臓脂肪が少ないことが分かり安心しました。皮下脂肪を減らす為にも運動も続けていきます！



申込み受付

内臓脂肪あるかなあ…



検査を受けたのは医事課スタッフ（26歳）普段は週2回ランニングするなど適度に運動するも食事は意識せず好きなものを好きなだけ食べてしまうそう。最近、お腹まわりが少し気になってきているようです。

支払

支払して終了！



結果説明

内臓脂肪は正常ですね。引き続き運動も続けてくださいね



よかったあ～

説明の他にも具体的な生活習慣改善策や直近の健診結果についても、アドバイス致します。

検査



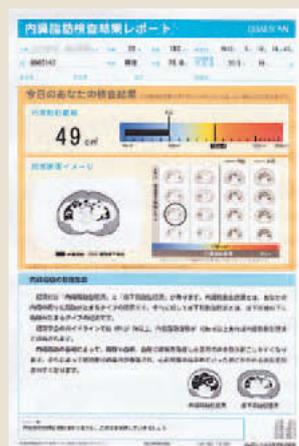
身長や体重、腹囲の計測後、腹部の面積を測定し、手足に電極を取り付けます

結果は…

内臓脂肪は問題なし

内臓脂肪面積や、16通りの腹部断面イメージ図から患者さんの状態に最も近いものなど結果をわかりやすく表示します。

※皮下脂肪面積は表示されません



はい。終了ですよ

えっ！もう終わりですか？！



測定時間は約5分。検査結果はその場で印刷されます。

申込み・お問い合わせ
人間ドック室

8月6日・7日 ふれあい看護体験

夏休み時期を利用し、ふれあい看護体験を開催しました。当日は2日間で85名の高校生に参加していただき、看護部・薬剤部・検査科・画像診断科・栄養管理科・リハビリ科でさまざまな体験をしていただきました。参加された皆さんの中には、見覚えのあるお顔もあり声をかけてみると、以前にトライやるウィークなどで体験されていたようで「また体験するのが楽しみでした」と笑顔で答えていただきました。将来の夢に向けたひとつの過程として、次回も多くの方にご参加いただきたいと思います。



8月8日 医師を目指す高校生のためのセミナー

医師不足の解消を目指し、養父市と当院が取り組む「やぶ医者プロジェクト事業」の企画として高校生を対象としたセミナーを開催しました。セミナーでは、当組合管理者、元津医師（整形外科部長）、辻本医師（研修医）の講演やフリートーク、また胸骨圧迫や聴診器でシュミレーターの心音を確認するなど体験も行いました。フリートークでは「訪問診察ができる医師になるには？」など具体的な質問も投げかけられ、皆さんの意識の高さに驚かされる場面もありました。



9月4日 当院で3度目! ジューシーズによる「ノスタルジックコンサート」



ブラス&ピアノトリオ「ジューシーズ」によるノスタルジックコンサートが行われました。当日は、あいにくの雨で各地に大雨警報が発令されている状態でしたが、京阪神から当院までお越し下さいました。美しく流れるようなピアノの音に、ぬくもりのあるホルン・トロンボーンの音色、懐かしく誰もが口ずさめる曲で、リズムにのって楽しんでおられる方、子守歌のように途中で眠ってしまった子供さんなど、タイトル通り「ノスタルジック」であたたかい時間を過ごすことができました。

9月19日 講演会「COPDの最新の話」



当院呼吸器科が京都大学呼吸器内科の関連病院となることが決定したというご縁もあり、講師に京都大学副学長・医学部附属病院長の三嶋理晃先生をお招きして講演会を開催しました。

三嶋先生には「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の最新の話」と題し、COPDにまつわる知識からips細胞を利用した肺の再生医療についてまで、さまざまな角度からお話しをしていただきました。

